

97年度活動報告特集

・97年度の活動報告

(組合員活動全体のまとめ)

1. 「実現 (= 成果づくり)」が進みました

パートさん学習会、健康安全の取り組み、平和の取り組み、ユニセフの取り組み、洋書インターネット、宅建(下宿幹旋)事業の開始、改装・自販機の増設(浜松地区)、ソフト・専門書の増加、宅建・旅行資格取得者の増、新コープカード実現、JR発券端末設置など

2. 参加が進みました。

一声カード、教職員利用者懇談会(浜松)、夜間主生活動の継続、浜松学生委員会の活発化、総代会議の継続、工場見学の実施など

3. 協同(協働)が進みました。

新学期活動、利用方法・メニューの配布、お店委員会、夜間主生活動(コピー機の利用改善)、平和の取り組み

4. 今後改善が必要な取り組み。

教職員利用者懇談会(静岡地区)の実施、お店の商品の見直し、環境の取り組みの強化、など。

5. 事業全体について

- ・供給高(組合員の利用額)は約22億8千万円となりました。組合員一人あたり年間22万円です。供給高は昨年と比べ4.6%の伸張です。
- ・新学期を中心に利用が増えました。情報学部生が増えた浜松地区では利用額が22%増えました。また基本食堂では前年と比較して利用者数も利用額も増えました。
- ・浜松地区での店舗改装などの投資を行いながらも530万円の当期剰余を計上することができました。

6. 97年度全体のまとめと98年度への課題

- ・一昨年以降引き続き経営の改善が進んできています。単年度毎には黒字を計上できるようになってきました。
- ・今後は中期的な経営計画づくりと各種引当金の充当が課題となります。
- ・組合員参加の幅の広がりや内容の前進がありました。今後は教職員・院生といった階層の組合員の参加をいっそう広げていくことが大切です。

97年は生協の事業や企画を通じて組合員参加や具体的な改善などが進みました。また新しい事業の開始を通して組合員の生活を支える活動が今まで以上に広がってきています。

(組合員さんと実現した取り組みを紹介します！)

1. 健康で安全な生活をみんなで考えてきました。

- 4月・・・新入生ガイダンスでは「アルパチテスト」を行い、コンパなどの案内の中でも「一気飲み防止」の呼びかけを行っています。
- 11月・・・大学祭企画として1)食生活相談コーナー、2)安全運転実習(車庫入れ大会、安全運転適性試験の実施、「静大周辺事故マップ」の作成など)、3)健康パオ(アルパチ、体脂肪測定など)などを行いました。

楽しみながら身の回りの健康や安全について組合員さんと一緒に考える企画を行ってきました。このほか、コープライフの誌上やお店でもさまざまな広報を行ってきました。

98年新学期ガイダンスでは、「アルパチテスト」や「事故マップ」「健康提案冊子」など新入生に役立つ企画も行われました。

2. 平和について考える取り組みが活発に取り組みられました。

- 4月・・・コープライフなどによる広報
- 5月・・・平和行進
- 6月・・・「ピースナウイン東海」参加
- 7月・・・「ピースナウイン静岡」開催、「反核平和の夕べ」共催
- 8月・・・「ピースナウインヒロシマ、ナガサキ」参加、「オキナワの旅」参加
- 9月・・・「焼津墓参行進」参加
- 10月・・・「平和活動報告集97年版」発行、コープしずおか「虹の集い」で模擬店参加、市民生協の組合員さんに平和の訴えなど行う。

数字で見る静大生協と組合員の97年

生協の仲間がこんなに増えました！
97年度新入生2,215人(内63人は夜間主生)を組合員として迎えました。組合員の総数は10,482人です。
学生総合共済に加入した仲間は1,926人です。加入者総数は7,519人になりました。

ケガや病気はなかったかな？

97年度の共済金の給付件数は315件。金額で2,980万円を給付できました。1件あたりでは9万5千円です。「ありがとう」の声がたくさん寄せられています。

昨年10月までの半年間に入院の経験を持つ静大生は21.2%。大学の調べでは最近の1年間に交通事故で亡くなった静大生が5人にもなります。生協ではこれからも健康安全の取り組みを積極的に取り組みます。

静大生の暮らし向きは・・・

97年静大生の生活費は1ヶ月平均12万2千円。1年前と比べ6,500円増えました。自宅生、寮生、下宿生の別ではそれぞれ5万6千円、9万6千円、13万5千円の生活費です。

暮らし向きは楽な方が33.9%、普通が45.4%、苦しい方は12.0%などとなっています。

今後の状況は変わらないと思っている人が55%、苦しくなっていくと感じている人が31%です。これからも組合員の生活を支える生協の役割は大切です。

「環境」について、あなたにできることは何ですか？

環境問題に関心を持つ静大生は「おおいにある」が33.9%、「まあある」が52.0%となっています。特に関心が高いのは「ゴミ問題」や「地球の温暖化」、「オゾン層の破壊」、「森林破壊」などで、いずれも5割前後が関心を示しています。

日常生活の中で心がけていることを聞くと、「ゴミの分別して捨てる」が72%、「台所のゴミ・油を流さない」が35%、「アルミ缶・牛乳パックの回収」27%などとなっています。

「身近なところからできることを」そんな静大生が増えているようですね。生協も環境問題には積極的に取り組んでいきます。

「就職」について何かしていますか？

就職について不安を感じている静大生は74.4%にもなっています。就きたい職業のために何かしている学生は4年生で55%、3年で41%、2年で27%、1年で32%などとなっています。理系よりも文系で、男性よりも女性でこうした傾向は強くなります。

卒業までに勉強以外に身につけたい事があるとする静大生は83%。具体的には語学能力や専門資格、コンピュータなどが上位にあげられています。それぞれ短期間では身に付きません。計画を立ててじっくり取り組む必要がありますね。生協でも就職・資格取得を支援する取り組みに取り組みます。

- 11月・・・大学祭での模擬店参加
 12月・・・浜松「フェスタ工学部」参加
 2月・・・生協「虹の広場」参加。全国の生協組合員さんに学生の思いを伝えました。「3.1ピキニデー」では「第5福竜丸」エンジンを見学しました。

平和の取り組みについて、静大の内外で色々な人たちと一緒に考え、取り組みをすすめてきました。ユニセフ募金にも引き続き取り組んでいます。

3. 「環境にやさしい」こと考えてみませんか？

第1食堂前では引き続き牛乳パックの回収を行っています。皆さんが持ち寄った牛乳パックは学生委員会で回収後、回収業者へ渡しています。ペットボトルの取扱い方や回収方法などについての検討も行われています。コープライフなどでは静大内でのゴミ問題などについて特集しています。

大学内の「人間と環境プロジェクト」に関連しては、食堂から出る生ゴミのリサイクル研究に協力しています。(具体的な取り組みは98年度に引き継がれています。)

4. 98年、新学期準備を頑張ってきました。

新入生を迎えるため、学内様々な学生団体と「全学新歓協議会」をもうけて準備を行ってきました。また、生協独自では入学試験時からの生活提案活動、「テレフォンインフォメーション」やさまざまな相談活動、「コープライフ新歓号」での学生生活の案内などが取り組まれました。

4月3～5日には「生協ガイダンス(ハロマイ)」企画が行われ、約400人の新入生が参加しました。新入生同士や先輩たちとの友達の輪が広がりました。

また、今春から学生向け下宿・アパートの斡旋に取り組んでいます。浜松キャンパスでは、移行学生向け下宿斡旋を始めました。静岡地区では静岡下宿大家組合などの協力も得て新入生向け「下宿事情説明会」を行いました。静岡・浜松の両地区を合わせると220人以上の学生に下宿・アパートを紹介、斡旋することができました。

5. お店委員会などで組合員さんと「お店」が一緒に取り組みを進めています。

浜松、静岡両地区の店舗改装について生協職員と学生組合員が一緒になって検討を進めてきています。浜松地区では食堂、購買の改装や店舗外の移動販売などが実現しました。静岡地区の食堂では利用者へのお知らせ活動やオリジナルメニューの実現などができました。このほかトラベルセンターやパソコンのお店委員会の活動が進んでいます。

また11月には工場見学などを組合員さんの参加で実施、生協で取り扱っている商品や食材がどのように作られているかを見学しました。

昨年は多くのテーマに取り組んでできました。たくさんの組合員の参加に支えられて、1年間継続することができました。ここに紹介できなかった「お店委員会(仮称)」をふくめ、生協の取り組みが、組合員さんの生活の様々な場面と関係づけられているものであることが明らかになった1年でした。

97年度剰余金処分案

1. 当期末処分剰余金	5,389,294 円
1) 前期繰越剰余金	75,184 円
2) 当期剰余金	5,314,110 円
2. 積立金取崩額	1,400,000 円
1) 教育事業充当金取崩	1,400,000 円
	合計 6,789,294 円
3. 当期剰余金処分額	5,000,000 円
1) 法定準備金	5,000,000 円
4. 次期繰越剰余金	1,789,294 円
	(教育事業繰越金 1,700,000 円を含む)

法定準備金とは事業の安定のために積み立てを義務づけられているもので、出資金の総額を限度とします。教育事業充当金は組合員に対し生協への知識や理解を深めるための活動に充てるための準備金です。いずれの準備金も、「消費生活協同組合法」に定められた剰余金の取り扱いです。

(今年度より厚生省の指導に基づき教育事業繰越金は次期繰越剰余金に含めて表記することになりました。)

97年度の事業活動のまとめ

97年度利用額

部門	97年実績	予算比	昨年比
購買	894,406	0.7%	9.8%
サービス	696,743	-0.6%	-1.5%
書籍	352,536	-1.3%	4.4%
食堂	332,870	-2.1%	5.1%
生協計	2,276,554	-0.9%	4.2%

(単位:千円)

新学期生活用品の利用は約4割ふえました。新入生の約6割に利用されています。

書籍部門では資格取得に関わる商品の利用が大きく増えています。今後も就職・教授や資格取得を支援する事業を強化していきます。

食堂部門では全体に利用が増えています。メニュー表や利用案内の配布など、利用のしやすさを改善する取り組みが続けられています。

組合員-97年度損益計算書 19千円の

ご利用です	97年実績	予算比	昨年比
供給高	2,276,554	-9.711	100.371
事業総剰余	414,335	6.180	22.131
人件費	260,334	6.326	14.024
物件費	116,121	9.500	8.309
分担費	41,992	0	1.495
事業経費計	418,447	15.826	23.828
事業剰余	-4,112	-9.646	-1.696
事業外収益	10,522	5.890	1.601
事業外費用	326	100	-1.640
経常剰余	6,084	-3.856	1.545
特別利益等	-80	920	62
法人税等	690	0	0
当期剰余	5,314	-2.936	1.607

(単位:千円)

利用高の合計は23億円弱となりました。書籍などの割引は2,682万円になります。事業総剰余とは供給高から原材料費などを差し引いた残り、様々な費用の原資ともなるものです。

人件費は昨年と比べ大きく増えました。新学期の利用増を中心に予定以上に人手が増えました。下期に抑制してしてきましたが、年間を通しては予算も上回る結果となりました。職員一人あたりの生産性では昨年を上回る結果を残せました。

物件費では新学期の物流費用と利用者増に対応した浜松地区での店舗改装費用が主な増加要因です。分担費は事業関係の業務委託に関連した費用です。

事業活動自体では約410万円の赤字です。利息など事業外の収益とあわせて530万円の剰余となりました。

97年度実施したお店の改装など

浜松地区では以下のような改装を行いました。

- ・パンショッパの拡充
- ・食堂カウンターの改善
- ・書籍・購買店の改装
- ・談話室(第2食堂(仮称))への自動販売機設置

以上でおよそ1,000万円の投資となりました。このほか静岡第1食堂ホールのイスの入れ替えやその他厨房備品の更新が大学によって行われました。